

けゆき

たすき



# 櫛の櫛

「学校教育目標」

絆を深め、地域社会に  
貢献できる生徒の育成

- 自ら学ぶ
- 思いやる
- 体を鍛える

文責 竹田 圭志

## 「おがわ学」公開授業を実施しました

10月22日(木)5・6校時、2年生が社会科の授業で「おがわ学」に関わる授業を公開しました。町内小・中学校や小川高等学校の先生方も足を運んでくださいました。

10グループに分かれたそれぞれの班が、今まで総合的な学習を利用して調べ考察したことを、発表用スライド(プレゼンテーションソフトを活用したタブレット端末を使用)にまとめて発表しました。多くの班が、小川町での植生地などに触れることで、小川町と関連付けながら、「木材を知る」から「小川町を知る」、そして、「小川町の課題を考える」につなげていこうとしていました。中でも印象的だったのは、地球温暖化に目を向け、SDGs(持続可能な開発目標)にまでつなげた発表でした。教科書で学習する地球規模の自然現象が、この小川町という身近な環境でも起きていることを木材の減少傾向などから導いたことは素晴らしい発見です。

また、以前、寄居林業事務所の皆様から講義をいただいた内容をヒントに考察を進めているグループもありました。地域の方たちとの絆も感じられる発表だったと思います。

今回授業公開した「木材」から小川町の自然環境へ研究を発展させた2年生だけでなく、1年生は、小川町の国指定の遺跡にもなっている「板碑発掘場遺跡」をヒントに、緑泥片岩について理科の学習につなげて発展させていきます。3年生は、日本の最先端とも言われる小川町の有機農業を学習することで、小川町の自然と産業の両立などへの研究を深めていきます。

指導者としてお出でいただいた小川町教育委員会学校教育課主任指導主事の田端 隆二先生(昨年度まで本校教頭先生でした)からも、今後も小川町に興味を持って、地域の方たちとのつながりを大切に継続的に研究を深めていってほしいと激励の言葉をいただきました。



参会された先生方には、発表内容と並行して、プレゼン能力の高さと、質問がたくさん出る積極性が好評でした。

## 後期第1回生徒会専門委員会

10月22日(木)に、後期の生徒会専門委員会の第1回目が開かれました。

下校時刻も早くなり、話し合いの時間が十分に取れない後期委員会ですが、どの委員会も新しい正副委員長が決められ、生徒が自主的に活動する活動を通して学校の課題を解決していくためのロードマップづくりを進めてくれています。

昇降口前の大量の落ち葉、花の時期が終わり枯れ始めたプランター、荒れたグラウンド、何年も放置されている2階の花紙モザイクのケヤップや委員会関係の掲示物。「これいつの?」「おかしくない?」と気付いている人がきつといると思います。でも、「きつと、誰かがやってくれるに違いない」と、頭でわかっているけど行動には移せない。

この「誰かがやってくれるだろう」の流れを払拭して、各委員会の皆さんの率先した「行動」で、学校全体を巻き込んでいってほしいと思っています。目標を立てることが自治ではありません。行動を通して変えてこそ、自治活動です。皆さんの「尽くす」行動を楽しみにしています。



「三人寄れば文殊の知恵」  
みんなで知恵を出し合えば、良いアイデアが生まれてくるはずですよ。

## 学校朝会の言葉(10/28)

ようやく爽やかな秋らしい天気になりました。これから徐々に冷え込みが強くなってきます。まだまだコロナに対する警戒は必要です。気を引き締めて生活して行きましょう。

さて、今日は自動車の部品、パーツについてのお話です。

皆さんは、車についているブレーキって何のためについていると思いますか？

車のスピードを弱めるため、止まるためについている部品ですね。

小川町にも工場があってゆかりのある世界のホンダ、本田技研工業の創業者、本田宗一郎さんにこんなエピソードがあったようです。

「おい、ブレーキって何のためについてるか知ってっか？」

「そりゃあ、本田さん、車を止めるためでしょう。」

「だからお前はダメなんだ！ ブレーキってのはな、思いっきりアクセルを踏み込むためについてんだ！！」

本田さんと親しい友人との会話です。

アクセルとブレーキ、推進力と抑止力、お互いに真逆のようなタイプの二つのパーツですが、それぞれの良さを引き出すことで、より早くより安全にゴールするという目標を叶えてくれます。本田さんは、世界最高峰の自動車レースであるフォーミュラーワン（F1）で何度もチャンピオンになったマシンのエンジンを開発してきました。本田さんは、高性能エンジン同様に、ブレーキにも高性能なものを追求したといえます。

人間にも、このように、全く逆のタイプがお互いに良さを認め合って、結果的に素晴らしいことを成し遂げているケースがたくさんあるように思います。本田さんは、社長として、自分の側近には自分とタイプが違ったり、考え方が違ったりする人を置くようにしたといえます。そんなところから「世界のホンダ」に成長できたのかもしれない。

私自身の中学校生活を振り返ってもそうなのですが、中学生の頃って、似たもの同士がやたらとくっついて、例えば、騒がしい子が固まってグループを作るとか、似たもの同士が集まる傾向が強くありませんか？そして、自分たちと違うタイプを妙に避けてしまったり。ひどい場合は、無視したりいやな言葉を掛けたり・・・。

全く違うタイプであっても、お互いの良さに気付き、認め合いチームを組むことで、かえって大きなパワーを発揮して成果を挙げられることがたくさんあるのです。学校生活でも同じではないでしょうか。

「ブレーキ」と聞くと、駅伝でもよく使う「〇区の選手がブレーキになった」などの表現にもあるように、少しネガティブなイメージに感じるかもしれません。でも、「ブレーキを掛ける」は、決してネガティブなことではなく、実は、ポジティブを支えていることにもつながっているのだと思います。是非、周囲の人の良さにしっかりと気づいて、お互いに認め合い、支え合う人間関係を作り上げていってください。

「おい、ブレーキって何のためについてるか知ってっか？」

人間関係で悩んだとき、自分自身に問いかけてみてください。



本田宗一郎さんとF1マシン  
本田さんに関わる本は、図書室にも置いてあります。頑張る勇気を与えてくれますよ。

### 小川町情報 「楮(こうぞ)かしき」体験

11月3日(火：文化の日)埼玉伝統工芸会館(小川町小川1220)で、「楮かしき」という楮の皮むき体験が催されます。楮の枝をゆでた後に皮をむいてそれを干したものが和紙の原材料の繊維になります。先日、小川和紙体験センターでお話を伺ったところ、「楮かしき」という作業は、11月から12月だけの期間限定で行われるとのこと(この時期に1年分の皮むき)。

その様子を見たり、実際に体験できるまたとない機会です。良かったら、足を運んでみてはいかがでしょうか？ちなみに、11月3日は、開館記念日のため、入館料は無料とのことです。



乾燥した楮の皮  
(和紙体験センター)